

ITコミュニティイベントの概要 ～ jus勉強会編～

日本UNIXユーザ会
法林浩之
hourin@suplex.gr.jp

もくじ

- 自己紹介とjusの紹介
- jus勉強会の起源
- 歴史と経過
- 統計情報
- 近年の状況
- jus勉強会の功罪

自己紹介

- 法林浩之(ほうりんひろゆき)
- 職業: フリーランスエンジニア
 - Wikipediaでは「職業: 闘う男」となっているが間違い
- 日本UNIXユーザ会(jus)副会長
 - 2003年から2年間、会長も歴任
- さらに詳しくはこちらを
 - <http://www.suplex.gr.jp/~hourin/>

日本UNIXユーザ会

- 日本のIT系ユーザグループの草分け
 - 1983年設立
- UNIXにこだわらず幅広い分野で活動
 - 1980年代後半～: UNIX Fairでの相互接続実験などで日本のインターネットの発展に貢献
 - 1990年代後半～: 「オープンソースまつり」などで日本のオープンソースの発展に貢献
 - 2000年代前半～: Lightweight Languageイベントなどで日本のWeb系技術の発展に貢献

jus勉強会

- ここでは1994年から現在まで開催している「勉強会」について紹介
 - jus創立期にも数回開催した記録があるが除外
- 基本スペック
 - 各回1テーマで2時間のセミナー
 - 平日夜もしくは休日午後で開催
 - 誰でも参加可能(参加費は細かい区分あり)
 - 毎月開催
 - 開催地は東京、大阪(年1~2回)、名古屋(まれに)

時代背景

- 1994年8月からjus勉強会開始
- 当時、セミナーは高価だった
 - 参加費が半日1万円とか普通
 - 資料は製本された冊子
 - 立派なつくりの部屋で開催(ホテルとか)
 - 講師料は1時間3万円が相場
- これでは気軽に参加できない
 - 特に自主的に勉強したい人にこの値段は出せない

jus勉強会の誕生

- もっと気軽に参加できるものを実施できないか
ということで「勉強会」を企画
- 1994年3月のjus幹事合宿で発案
- 同年4月幹事会のB幹事会にて企画を検討
 - B = for Beginners
 - 技術普及に関する活動を行う

企画当初のコンセプトと方針

- 自己啓発
- レベルの底上げ
- 継続的な開催
- 収支均衡

自己啓発

- 自費で出せる料金設定
 - jus会員は1000円
 - 一般は2000円
 - 価格を先に決めてから収支を考えた
- 気軽に参加できる時間帯設定
 - 仕事帰りに参加できるように平日夜に開催
 - 当日思い立ったら参加できるように事前申込なし

レベルの底上げ

- 初心者向けの内容を中心にする
- jus幹事が持ち回りで担当し、自分が教えられる話をする
 - 結果的に初心者/中級者向けの内容が増える

継続的な開催

- 毎月開催
 - 当時B幹事が12人いたので1人1回担当すれば1年で
きるだろうという考え
- 毎回参加者にアンケートをとり運営の参考にす
る
 - 原案は法林が作成したらしい(覚えてない)
- 毎回必ず懇親会をする
 - 講師、jus幹事、参加者の交流を図る
 - 講師は無料招待(講師料の代わり)

収支均衡

- 各回の勉強会で収支均衡を図る
 - 収入: 参加費
 - 支出: 会場費、資料印刷費、講師の飲み代
- 安価な貸し会議室で開催
 - 初期は探すのに苦労した
- 資料は製本せずコピーで済ませる
 - 印刷費の低減
 - 講師も前々日ぐらいまで資料を作れる
 - 製本しようとするとも1週間前には提出の必要あり

第1回jus勉強会

- 日時: 1994年8月24日(水)18:00 ~ 20:00
- 講師: 前田薫(リコー)
- タイトル: Emacsひとりあるき
- 内容: Emacsの自習方法の紹介(info,aproposなど)
- 場所: 機械振興会館 67号室
- 参加者数: 31人
- 懇親会参加者数: 9人
- 収支均衡も達成

安定運用に向けて

- jus勉強会は順調な滑り出しをみせる
- 回数を重ねるごとに運営方法を改善
- その中で際立ったものをいくつか紹介
 - 事前申込システム
 - 勉強会マニュアル
 - 勉強会セット
 - 1か月前ルール

事前申込システム

- 自費で参加というコンセプトだったがみんな領収書を欲しがる
 - 実際には仕事で参加する人が多かった
- 当日、受付で大量の領収書を書くことになり煩雑
- 対策として事前申込システムを用意
 - 当初はメール自動応答で構築、のちにWeb化
- 宛名付き領収書の作成ができる
 - CGIにて領収書の元データをCSVで出力
 - それをMS-Wordの差し込み印刷に入れると人数分の領収書が作られる
- 現在も稼働中(勉強会以外のイベントでも使用)

勉強会マニュアル

- 主に事務担当者が行う作業を記述したもの
- 会場の確保から事後の精算方法まで詳細に記述されている

勉強会セット

- 勉強会で使う事務用品を集めて鞆に入れたもの
- 主な中身
 - 筆記用具、ものさし(領収書の裁断に使用)、当日参加者記入用紙、jus封筒(A4/封書サイズ)
 - 事前申込者リスト、領収書、資料コピーを同梱
- この他に担当幹事が持参するもの
 - プロジェクター、スクリーン(jus備品)
 - 会場に設備がないときのみ持参
 - ビデオカメラ、三脚(jus備品)
 - 記録撮影用
- 通常2人程度で分担して運搬

1か月前ルール

- あまり直前に告知しても参加者は集まらない
 - それは講師に対して失礼
- 開催1か月前までに準備を完了する
 - 参加申込を受け付けられる状態にする
 - 間に合わないときは延期する
- 参加申込受付に必要な情報
 - 日時、会場、講師、演題、概要(数行程度)、対象者

時代や実情に合わせた変化

- 参加費の多様化
 - jus会員特典強化のため一般は3000円に
 - 告知してくれた団体の会員は2000円に
 - 学生優遇のため学生は1000円に
- テーマの高度化
 - 初心者向けと書いてるのに上級者もよく来る
 - 徐々に先進的な話題も扱うように
 - それでも「そのテーマに関しては初心者」ぐらいに設定

統計情報

- 開催回数: 158回
- 参加者数
 - 平均30人前後
 - 最大100人(1995年6月「HTMLいろはの"い"」)
- 収支
 - 年単位で見ると赤字になった年はない
 - 各回では赤字になることはある
 - 参加者が少ない、安い会場が取れなかったなどが理由
- 開催地
 - 東京9、大阪2、名古屋1ぐらい(年12回開催として)

近年の状況

- 昨年あたりから参加者数が漸減傾向
 - 特に東京で顕著
- 原因(推測)
 - コミュニティが主催する勉強会が増えた
 - jusが企業ユーザと付き合う機会が減っている
- 開催回数も漸減傾向
 - 幹事の減少
 - 他のイベントに労力を割かれ勉強会に手が回らない

jus勉強会の功罪

- 企画当初の目標は十分に達成できたと思う
 - 自己啓発: 自費で参加する人が少なからず出現
 - レベルの底上げ: 技術の普及に少なからず貢献
 - 継続的な開催: 15年目に突入
 - 収支均衡: 単年度では14年連続黒字
- セミナーの敷居を下げることに成功
 - 現代的な「勉強会」への橋渡しの役割を果たしたかも
- jusに膨大なイベント運営ノウハウが蓄積された
 - 後年の他団体との合同イベントに生かされる

jus勉強会の功罪(つづき)

- セミナーの価格破壊をした
- それが良いのかどうかは疑問
 - 参加者にとってはもちろんよかったに決まっているが...
 - 運営からみると、収支均衡を困難にってしまった感あり
- 良い内容のイベントでもちょっと値段が高いと客が全然来なくなる
 - このイベントとか(苦笑)

まとめ

- jus勉強会について紹介
 - 成り立ち
 - 歴史と経過
 - 統計データ
 - 近年の状況
 - 振り返り
- jus勉強会のページ
 - <http://www.jus.or.jp/benkyokai/>
- 問い合わせ先(講師の立候補など)
 - office@jus.or.jp